

令和7年度第1回湯沢町総合教育会議 議事録 (※要旨)

1 日 時 令和7年4月25日(金) 午前10時30分開会 午前10時57分閉会

2 場 所 湯沢町役場 3階 大会議室

3 出席者 ○湯沢町長 田村 正幸

○教育委員会

教育長 種村 公夫

教育委員 南雲 敬一

教育委員 上村 麻美

教育委員 高橋 延次

教育委員 新井 恵

○事務局

・総務部

総務部長 前原 力

総務課長 河原田 衛

総務係長 水落 仁

総務課総務係主事 井熊 祐

・子育て教育部

子育て教育部長 南雲 一春

子育て支援課長 平賀 菜津子

認定こども園長 南雲 智子

4 協議事項 (1) 令和7年度からの湯沢町教育に関する大綱について

(2) その他

5 会議の概要

1 開 会

総務部長	それではただ今から、令和7年度第1回湯沢町総合教育会議を始めたいと思います。皆様のお手元に次第がお配りしてあると思いますので、それに則って進行いたします。まず最初に田村町長がご挨拶申し上げます。
------	---

2 挨 拶

町 長	皆さん、お連れ様でございます。今日はそれぞれ大変お忙しい中を今年度の総務教育会議にご参集いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から町の教育行政におきまして様々にご協力いただいておりますことを、教育委員会の皆さんに、心からお礼申し上げたいと思います。大変な大雪でしたけど、あっという間に桜が咲いて田んぼの畔が出て、田が出て、春らしくなってきました。小学校も今年、小学生が40人、中学が43人だったと思いますが、新しく入学をされてそれぞれに元気で笑顔な姿を見て安
-----	---

	<p>心したところです。この総合教育会議につきましては、平成27年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律案が新たに施行されたわけですが、その趣旨が、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、組長との連携の強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図るための地方教育行政制度の改革を行うと、こういう趣旨にのっとり、町長として政治的中立の中でしっかりとリードしていきます。大津市で、いじめがあって子供さんがなくなるという痛ましい事件がありました。そういう観点から、教育を町長部局と教育委員会としっかりと連携しながら取り組みをしていきたいと思います。教育大綱も昨年度、第二期ということで新たに「笑顔あふれる学びで君が輝く町」という大綱が策定されているところです。湯沢町の子供たちがこの先、この湯沢学園をはじめ、この湯沢の学校で地域とともに学びながら、グローバル化の中で自分の意見をしっかりと言うことができ、相手の声を聴きとるという中で、今湯沢学園の教育目標である人を思い我を磨くことと、やはり相手の立場に立つということ、そして優しさや温かさとともに、それを実現できるためのしっかりとした気力、体力、知力、学力というものを磨いていこうということで取り組みをしているところでございます。町としても、町長という立場からも、皆様からご協力いただく中で、湯沢町の子供たちがしっかりと、極めて厳しい様々なことがありますけれどもその中で、生きる力というものをもって成長していつてもらいたいと、このように思っているところでございますので、委員の皆様から更なるお力添えをいただいて取り組みをしていきたいと思っておりますから、よろしくお願ひ申し上げて、わたくしからのご挨拶とします。本日はよろしくお願ひします。</p>
--	--

3 協議事項

<p>総務部長</p> <p>子育て教育部長</p>	<p>ありがとうございました。続きまして次第3の協議事項に入りたいと思います。「(1)湯沢町教育に関する大綱の進捗状況について」ということで子育て教育部長から説明をお願いします。</p> <p>子育て教育委部長南雲ですが、わたくしのほうから令和6年度の新たな湯沢町教育に関する大綱の進捗状況について説明させていただきます。皆さんにお配りした紙ベースのほうを中心に説明させていただきたいと思ひます。</p> <p>まず1枚めぐりまして、上の「子育て支援」から順次、状況を説明いたします。</p> <p>一つ目の丸、総合子育て支援センターを拠点とした子どもと保護者・家庭の一元的な支援を実現し、子育てのしやすい町を目指す。令和5年度までの乳幼児から就学に至るまでの指導支援プランを見直して、「乳幼児 発達診断フロー図」に再整理し、保育教育の充実を図ると共に、就学までの支援をよりきめ細かに行い、これにより、一人一人の指導支援を多角的、計画的に進めることが以前より出来ております。また、保護者のニーズに応える各種サービスの充実を図りながらも、日々の保育の充実を図るために、日曜保育については、令和7年度から、繁忙期以外の保育希望者が少ない時期は、利用を一部停止することとしています。次の丸、こども園・学校で保護者支援を行い、家庭の教育力向上を図る。家庭の教育力向上を目指し、湯沢町の幼児・児童・生徒の課題であ</p>
----------------------------	---

るメディアとの 接し方について、基礎調査を行い、令和7年度の「教育フェスティバル」や「子育て教育の日」に提言できるよう準備を進めて来ているところです。

次の湯沢学園についてです。一つ目の丸、保小・小中の切れ目のない指導支援で、子どもの成長の連続性を保障する。保小中の指導・支援の連続性を図るため、教職員の合同研修会を実施したり、子育て支援課や外部 指導者を招いたりして、子育ての実態をもとに、指導の在り方を検討・協議しており、子どもをまんやかに据えた指導 支援を進めております。次の丸、保小中一貫教育の質を高め、安定して全国平均を上回る学力を実現する。令和5年度と比べると、落ち着かなかった子どもたちの姿は減り、学びの基礎力の指導が進み、少しずつ成果が現れてきていると感じておりますが、学力向上には更なる授業改善が必要な状況であります。また、令和6年度の全国学力・学習状況調査では、小学校、中学校の国語、算数・数学ともに全国平均を下回りました。特に中学校の数学は不振でした。今後は、まず国、県の平均に追いつき、安定的に上回ることが大きな課題となっております。次の丸、コミュニティスクールを積極的に推進し、地域と一体となる教育を実現する。学校運営協議会の取組の活性化を目指し、学校と地域をつなぐ地域交流センター専任職員に加え、地域と学校をつなぐコーディネーター役となる「地域学校協働 活動 推進員」の配置の準備を進め、令和7年度からは2名の方を任命しております。これにより、取組が一層充実すると期待しています。次の丸、豊かな心を育み、いじめを許さず、見逃さない意識を高め、安心して過ごせる学校づくりを推進する。令和6年度の「いじめ」の認知件数は、小学校26件、中学校8件で、小学校が増加しております。例年よりも件数が増加したのは、きめ細かに「いじめ」を認知するようになったためであります。次の丸、湯沢町の教育資源を活用したキャリア教育を実現し、湯沢のよさを体得させる。湯沢学園のキャリア教育プランの「おもてなしの心を学ぶ湯沢学園のキャリア教育」をもとに、地域の指導者を招聘して多様な学習活動を展開し、地域に学び、地域で育つ、の育成を推進しております。また「大好き！湯沢」の改訂作業を進めながら、「湯沢の誇り」を軸とする教育活動を6年生が開発したり、アントレ プレナー シップ教育を取り入れて9年生が湯沢町への提言を行ったところでもあります。次の丸、ALTの活用による英語力向上やICTの適切な利活用を積極的に推進する。学力向上の一環として英語力向上を実現するために、英語検定の負担を年1回助成する制度を始めるとともに、「みくに学園」とコラボした「イングリッシュ キャンプ」を年3回開催し、英語を積極的に学ぼうとする姿勢の育成を進めています。また、令和2年度の第1期GIGAスクール構想時に購入しました児童 生徒用のタブレット端末 (iPad) が5年経過し、児童生徒にもタブレット端末を使用することが浸透しております。令和7年度は、そのタブレット (約460台) の入れ替えを行う予定しているところです。

次の生涯学習です。一つ目の丸、「湯沢町生涯学習推進プラン」に基づき、生涯学習の充実を図る。湯沢町公民館につきましては、令和2年度から管理等の業務を外部委託してきたところですが、令和6年度が最終年度となっておりますので、昨年9月に今後5年間

	<p>の業務等の委託について、公募型プロポーザル方式により委託先業者を決定いたしましたところ、今までと同じ業者に決まりましたので、今後も安定した継続運営が行われると考えております。次の丸、「雪国館」の利活用や文化の香り高い「全国童画展」を推進する。リニューアルしました「雪国館」につきましては、好調なインバウンド効果により、令和6年度の入込客数は、コロナ前の令和元年度と比較して113%で、外国人に至っては、同じく令和元年度比で303%の入込で非常に好調でありました。今後も国内外に向けて魅力ある「雪国館」をアピールできる取組を指定管理者とともに進めていきます。</p> <p>最後の安心安全です。一つ目の丸、湯沢町のあらゆる組織で明るい挨拶を推進し、町のホスピタリティを高める。「いつでも・どこでも・誰とでも・笑顔で・自分から先に」を合言葉に、学園で指導してもらおうと共に、「青少年 健全育成 機関」や人権団体等と連携して、あいさつに力を入れおります。一部の町民から「子どもたちのあいさつがよくなった」などの声が届いていますが、今後も連携して力を注いでいきます。一つ丸が飛んで、三つ目の丸です。青少年問題協議会、通学路安全推進協議会等と連携し、事故の予防に努める。通学路につきましては、「通学路 安全推進 協議会」で地域からの要望事項を確認しまして、県及び町の各担当に対応を要望しているところではありますが、直ぐに対応いただけない箇所も多くある状況であります。また、学園前の県道の改良につきましては、今年度（令和7年度）に南田中線（町道）と県道の交差点の改良工事が行われる予定と聞いております。</p> <p>簡単ではありますが、以上で説明を終わらせていただきます。</p>
<p>総務部長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま子育て教育部長より湯沢町教育に関する大綱の進捗状況について説明がございました。それを受けまして、委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>南雲委員</p>	<p>雪国館で大変なインバウンドのお客さんが来ているということですが、来ている外国人の方が、どこの国の方が来ているか、そういった統計等はとっていませんか。</p>
<p>子育て教育部長</p>	<p>具体的にどこの国っていうのはたぶんパスポートを見ないとわかりません。特にアジア圏の人は特にそうなのですが、わからない状況もありますので、どこの国っていうのはとっていないという風に思っております。ただ、アジア圏が多いことは間違いありません。</p>
<p>町長</p>	<p>外国人の入り込みで一番多いのは台湾でシンガポール、中国、からも多いので、今ほど担当部長からお話があったように、その国の方々が多く来ておられると思うし、中には欧米の方も少しずつですけど入ってきています。こういう事柄に対しての関心というのが欧米の方々には強くあるかもしれないので、そういう方々も来ている可能性もあるけれども、自分自身がデータで色々見ているとそういう方々が多いのではないかと思</p>

	います。
南雲委員	雪国館の説明は基本的には英語とプラス中国語、韓国の方は今それほど来てないか、来ているか。対応しているのはその三カ国語くらいでしょうか。
町長	たぶん、そこまでできる人は少ないのではないかなと思うし、今翻訳機があったり、あと絵というのは感性というか目で見てというものでもあると思います。急になんか言われた時には、身振りとか手振りとか、しっかりとした説明ができるような体制は、今のなかでは整ってはいないと思います。ただ、こうやってインバウンドが300%を超えるということで増えてきている事実があるとすれば、特に湯沢の場合の童画の街づくりということで取り組みしていますから、南雲さんからお話があったようなことも今後必要になってくる、そういう時代になっているのではないかと思ってお聞きしましたので、参考にさせていただければと思います。
総務部長	その他、何かありますでしょうか。
教育長	童画について補足ですが、これだけ素晴らしい童画作品が集まり、これだけの展示をしておりますので、それをなんとか子供たちにもしっかり見てほしいなという風に願っています。湯沢学園ではようやく今年度から、隔年の、2年生、4年生、6年生、8年生が全員で童画の展示を見に行くような教育活動を組んでいただいて、子供たちからもしっかりと童画を受け止めてほしいなということで願って、動き出しておりますので、ぜひ皆さんからのご承知おきいただければと思います。よろしく願います。
総務部長	その他いなかでしょうか。
町長	さっきの挨拶の時に言い逃したのですが、子供はやっぱりみんな個性があって個々に違うわけです。だからその個性を活かすというか、その個性によって自らを伸ばすということもとても大事だという風に思うし、そのことによって生きる力というところへ繋がってくるということが大事だと思っておりますので、たぶんそういうことも含めて学校現場では取り組みをしていただいていると思います。引き続き良いものを伸ばす、たぶんそうすると他のところも一緒になって伸びてくると思うし、やっぱり生きる力というか自立できるというところが、一番大事だと思っておりますので、そのところを、いつも頑張っていただいていることを承知しておりますが、お願いをしたいと思いません。
総務部長	せっかくの機会ですのでなんでも結構ですが、いかがでしょうか。
南雲委員	もう一点いいでしょうか。みくに学園の関係なのですが、全体の組織がわからないので、説明していただければと思います。それで今確か、町のほうで無料で貸しているの

<p>総務部長</p>	<p>ですかね。</p> <p>総務部の施設管理と関連して、この前先方よりご挨拶に来ていただいたのですが、組織が私もおぼろげですぐ言えないのですけれども、もう長年活動をされていて、春から秋まで通年で年活動しているのですけれど、学生さんがいらっしゃるの春から秋までということで、以前よりも多くの海外の方たちがそこで学んでいます。非常に活発化しているという話もありまして、今度ぜひ、みくに学園を見に来てくださいというお言葉もいただきましたので、見に行ってみたいと思っていますし、また機会があれば委員の皆さんも一緒に行って、同じ湯沢地内の教育の場と考えれば、学園のほうも英語に力を入れているというのもあるので、連携がうまくできればいいかなという風に思っています。</p>
<p>町長</p>	<p>今、担当部長から話がありましたけれども、皆さんのところにこのBYU (Brigham Young University) の資料を、お渡しをして理解をいただくことが、今は一番いいのではないかと思います。今マグナとターンシップ、姉妹都市提携を湯沢町がしています。アメリカユタ州ソルトレイクなのですけれども、その関係でそのマグナ、ソルトレイクにある Brigham Young 大学、というところの系統の方々が来ていただいて、湯沢でそういう学園を取り組んでいきたいということで始めたところです。町としてもその趣旨に賛同してみくに学園を貸出するにあたっては、三国地区、特に浅貝地区の方々が、夏場合宿で体育館とグラウンドを使うということで、そういうことも色々協議しながらお互いが理解をされていて進めてきていて、もう10年近くなるのかと思います。今の経緯も含めて私が説明したことは足りないことがいっぱいあると思うので、こういうことで始めました、今こうなっています、カリキュラムはこうですというのを皆さん方にお渡しをして理解していただきたく思います。</p>
<p>総務部長</p>	<p>後ほど資料をお渡しできればと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の件について若干補足させていただきたいと思います。BYUはユタ州にある大学でその学校の校舎はハワイにもあったり、3、4か所あります。向こうから学生さんが来てこっちで学んでいる部分もあるのですが、大体2、3週間スパンくらいで人が入れ替わってやっているようです。日本人もたくさんそこに行って学んで、何をしているかという、アメリカの大学に入学するための準備をしているんです。だから私らが去年からイングリッシュキャンプということで、行って子供たちを丸一日そこで英語漬けにするという活動を始めたのですけれども、行くと日本人とアメリカ人、他の国の人も含めて、結構みんなが一緒に共同生活をしている、そんな場所になっていて、教室を使って授業表に沿って授業をしているのですけれども、非常に多彩な教育活動をされておりまして。そこで日本の学生の場合ですと半年間くらい勉強して英語力をつけて、アメリカの大学で学べる、そのための準備をしている、そんな教育活動もやっておりました。子供たちがいて学びにも非常にいい環境だなという風に思いまして、去年からお願いをし</p>

<p>総務部長</p>	<p>で取り組みをさせていただいております。ちなみに、向こうからもとてもよくしていただいて、送迎とか、食事とかみんな向こうのサービスになっています。向こうはキリスト教系の大学なので、サービス精神が凄くて、いわゆるひとに奉仕するという、そういう形での動きが非常にたくさんありました。そんなことも学べたらなと思っているところでもあります。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>他、じゃあよろしいでしょうか。そうしましたら協議事項の(1)は閉じさせていただきたいと思います。その他に入りたいと思います。事務局のほうでは特段、協議事項を用意しておりませんが、この機会に皆さんのほうから何かといのがありましたらお願いしたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>昨年度、総合教育計画を策定する時点で、考えていたことの一つに湯沢学園の卒業生がどんどん成人をして社会に出て行って、今年なんかはその卒業生が役場に入ってきたりとか、そんな時を迎えています。前の教育大綱の時には湯沢学園の教育をどうするかということがメインとなっていました、その先を見据えたということでの大綱になっています。ただ、湯沢学園を卒業した後、湯沢町に高校が無い関係もありまして、全ての子供たちが町外に出ていくという、この三年間の把握支援が十分できていないことがとても心配されておりました。湯沢学園を出た後に新しい環境にうまくなじめない子供がいたりとか、そういう課題もありましたので、そういう子供たちもしっかり支えていけるような町の仕組み、システムを今後しっかりと作っていきなりたいと思います。それに沿って大綱も順次また改定されていくことがあるかもしれませんが、保小中の一貫性に加えて、先を見据えた町の教育の在り方をここからぜひ考えていければと思っていますので、そういう目でまた皆様から今後の教育を見ていただければということ、願っております。よろしく申し上げます。</p>
<p>総務部長</p>	<p>今ほど学園を超えたところまでという話がありましたが、それについてなにかあればお願いします。</p>
<p>上村委員</p>	<p>今、教育長からの話もありました、小中を出てからの高校の支援ということで、私も今高校生の息子がいます。同じ同学年のお子さんや先輩のお母さま方からもよくお話聞きますが、町外に出ているということで帰ってくる時間も遅かったりするんですけど、田村町長もおっしゃっていた個々の能力を伸ばすにつながると思うのですが、部活動をやられているお子さん多々いますが、どうしても帰りが遅くなりバスもなかったりする中、保護者が送迎をメインにしています。それもできないご家庭もある中で、子供がせっかくやりたいって頑張ろうとしているところに何か支援があると、個々の能力を活かせる、子供の高校生活も有意義な三年間を過ごせると思います。その辺も町を挙げて支援していただけたらなという願いがありますので、ぜひ検討していただきたいと思っていますのでよろしく申し上げます。</p>

町長	それは具体的に高校が、塩沢とか六日町とか十日町とかいろいろあると思いますが、それで帰ってくるにあたって、JRで湯沢に着いた後の、その先のことでしょうか。
上村委員	そうです。湯沢駅までは帰ってこられるんですけど、そこからの自宅へ帰る、町の中に住んでいる方々はいいいんですけれど、三国、三俣とかの遠い方はそれで部活ができない、あきらめたっていうお子さんも何人かいらっしゃいました。そういうせつかくやろうっていう中での断念をするのは、見ていて辛い、切ないなと思いました。大体7時か8時の電車で帰ってくるのですが今バスが出てないそうなんですよね。
町長	すぐできるというわけでもないのだけれども、地域公共交通ということで今、環境整備で計画を作って取り組みをしています。その中で、金曜日と土曜日だったと思いますが、苗場方面に対して夜8時台のバスを出しています。地域要望の中では学校の子供たちだけではなくて、暮らしやあるいは仕事の関係を含めて、充実をしてもらいたいという声があるので、もちろん財源も必要になってくるからどこまでできるかはまだこの先のことですけれども、今のお話を受けた中でしっかりと交通政策を進めなければならないという風に考えています。今の話も、公共交通の観点の中で議題として取り上げていかせていただければと思いますので、現場の率直な声もまた聴かせていただければと思います。
総務部長	ありがとうございました。その他、いかがでしょう。よろしいでしょうか。
	—— ※質疑なし ——

4 閉 会

総務部長	無いようですので、それでは以上をもちまして令和7年度の第1回湯沢町総合教育会議を終了したいと思います。お忙しいところ皆さん有難うございました。
------	---